

関西グローバルヘルスの集い 夏の特別セミナー Global Café 2021夏 わたしたちのグローバルヘルスを語ろう!～第2弾～



サラヤ株式会社 メディカル事業本部
福井 沙織

2014年サラヤ株式会社入社。現職参加制度を利用し、
2018年～2020年青年海外協力隊参加。西アフリカの
ベナン共和国でコミュニティ開発隊員として活動。KGH
の集い運営委員。

学びを深める Global Café

関西グローバルヘルスの集い (KGH) は、2020年からオンラインセミナーを継続しています。2021年はオンラインセミナー第3弾として5～7月に「COVID-19からの学びは国境を越えて」という大テーマを掲げて3回開催をしました。今回もYouTube生配信、また見逃し配信をセミナー終了後1週間行うことで、延べ1000人以上の方々にご視聴頂くことができました。

新型コロナウイルス感染症対策により、対面でのセミナー開催が叶わない中、オンラインを活用し、セミナー配信を継続できることは、とても有難い反面、やはり一方的なやり取りで終わってしまうという課題もあります。そこで、このオンラインセミナー第3弾の内容を参加者の皆さんと振り返る時間を作りたいということから、Global Café 第2弾の開催が決まりました。

自由闊達な議論の場の提供

Global Caféの最大の目的は、双方向型ディスカッションの場を提供することです。様々なバックグラウンドを持っている方との出会い、コミュニケーションの場を設けることで、新たなネットワークの構築につながることを願い、企画しています。よって、了承を頂いている参加者へは、個別に連絡が取れるよう、メー

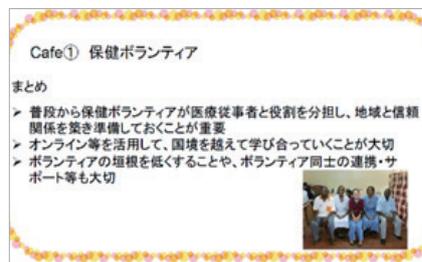
ルアドレスの共有を終了後に行っています。

また医療関係者のみならず、様々な分野の方々も気軽に参加できるよう、Google formを利用して申し込みを行えるようにしました(前回はメールでの応募、応募理由など詳しく記載頂くようお願いしていました)。結果として、34名の方々からお申し込みを頂き、年齢層も20代から70代まで幅広いコミュニティとなりました。

第2弾のGlobal Caféでは、まずオンラインセミナー第3弾の各回のテーマについて運営委員が振り返りと話題提供を行いました。それを基にブレイクアウトルームを活用して、各グループでディスカッションを行い、各グループで話した内容を全体で共有しました。以下、各回の話題提供の内容をご紹介します。

①保健ボランティア：なぜ、日本には活躍の場がないのか？
(話題提供：小松法子)

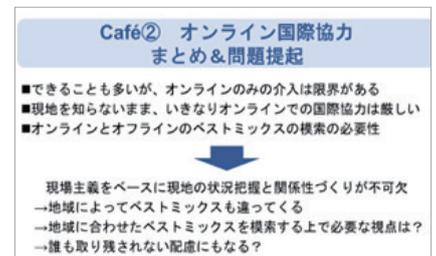
- ・保健ボランティアが活躍できる環境にするためには何が重要？
- ・日本で保健ボランティアが活躍するためには？



Café time ①：保健ボランティア資料から

②オンライン国際協力：できること、できないことは、なに？
(話題提供：福井沙織)

- ・現場主義をベースに現地の状況把握と関係性づくりが不可欠→地域に合わせたベストミックスを模索する上で必要な視点は？
- ・現場主義をベースにすることで誰も取り残されない配慮となる？



Café time ②：オンライン国際協力資料から

③ソーシャル・ディスタンス：とり残されたのは、だれ？
(話題提供：森本早紀)

- ・ソーシャル・ディスタンスによって生まれた、またはこれから生まれる隔たりとは？
- ・ソーシャル・ディスタンスがもたらしたポジティブな側面は？
- ・取り残されてしまうのは誰なのか、誰一人取り残されないために考えられることは何？



集合写真

今日の流れ

- 13:00～ オープニング・自己紹介・日本WHO協会/KGHの活動紹介
- 13:20～ 話題提供①「保健ボランティア」
- 13:30～ Café time ①
- 13:50～ Café報告①
- 14:00～ 話題提供②「オンライン国際協力」
- 14:10～ Café time ②
- 14:30～ Café報告②
- 14:40～ (休憩)
- 14:50～ 話題提供③「ソーシャルディスタンス」
- 15:00～ Café time ③
- 15:20～ Café報告の後、全体ディスカッション
- 15:55～ まとめ
- ～16:00 終了!

引き続き16:10～オンライン懇談会!

- ・参加は任意です
- ・ドリンク等はご自分でご用意ください

- ・Café (ブレイクアウトルーム) は、こちらでランダムに割り振ります
- ・Caféの移動はできません
- ・20分で自動的に閉じます

当日の進行表

誰一人取り残さないために

- ・日本社会とソーシャル・ディスタンス状況にある人が三重を回避できない
- ・多様なサブコミュニティが存在し相互に繋がっていない
- ・困った時にどうしたらよいか分からない

二重三重日本人の役割が重要となる
民生委員やボランティアなど、地域の世話好きの人たちの役割が大きい

適切な情報入手でき、相談やサービスにつながる体制や幅広い日本社会との共同が必要!!

Café time ③ ソーシャル・ディスタンス資料から

Global Café の様子

運営委員の話題提供後、約6名のグループに分かれて20分間のディスカッションを行いました。ブレイクアウトルームが終了して全体へ戻ってきたときの参加者の表情、また共有されるお話を聞きながら、各グループ活発なディスカッションが行われていたのだと実感することができました。各グループには運営委員が1, 2名加わるように設定されていたので、基本的には運営委員がディスカッション内容の共有を行いました。一部参加者にもご自身の経験を踏まえて共有頂くなど、双方臨機応変に積極的に参加頂くことで、進行もスムーズに、また話しやすかったというお声も頂きました。3時間という長丁場ではありましたが、

あっという間に感じられました。終了後の懇親会には多くの方が残ってくださり、新型コロナウイルス感染症状況下、子どもの権利はどうなっているのか? など、とても深い議論が引き続き行われ、終始学びの多い時間となりました。

参加者からの声

当日の参加者は運営委員を含めて40名でした。行政でコロナ対策を行っている方、多方面でボランティアを行っている方、また海外からもご参加頂きました。以下、参加者から頂いた声をご紹介します。

- ・色々な方のご意見を聞くことができ、とても刺激になりました。(医療従事者)
- ・このような機会がないとお会いすることがない年代や職業の方々とお話することができて、大変勉強になった。最後まで緊張はしましたが、よい経験になった。(医療従事者)
- ・普段医療関係者との話が多いので、様々な分野の人たちと意見交換できて新たに学ぶことが多かった。グループの人数もちょうどよく、話しやすかった。(大学院生)

継続は力なり! これからの Global Café

「自由闊達な議論の場」の提供と新たなネットワークの構築を目指してはいますが、まだまだ「一期一会」とどまっているという課題も残っています。しかしリピートして参加頂いている方もいらっしゃる、SNSを活用した関係構築ができればというお声も頂いていることから、今後も継続してより良い機会を作っていきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症パンデミックからすでに2年が経ちますが、オンラインの利点も活かしつつ、そろそろハイブリッド型でリアル会場でも開催ができないかと考えています。オンラインセミナー第4弾もスタートしています。継続は力なり! を合言葉に企画を続けたいと思えます。皆様の継続したご参加、ぜひお待ちしております!

過去の関西グローバルヘルスの集いセミナーは日本WHO協会のHPにも記録があります。毎回使用された資料が閲覧可能ですので、ぜひご覧ください。
(<https://japan-who.or.jp/about-us/kg/h/>)